



研究者名※	定行まり子 SADAYUKI Mariko	学位※	工学博士
所属※	家政学部 住居学科	職名※	教授
連絡先	sadayuki@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://mcm-www.jwu.ac.jp/~sadayuki/		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0039888		
研究分野※	工学・建築学(都市計画・建築計画) / 複合領域・生活科学(住生活学)、子ども学(こども環境学)		
研究キーワード※	住居計画、住生活、子育て環境、環境心理生理、地域施設、高齢者居住、子ども環境、物理的環境		
共同研究・競争的資金等の研究課題	・多様化する保育施設における「保育の質」確保のための物理的環境整備について(基盤C・研究代表者、2019-2021) ・少子高齢化社会に対応した子育て支援住環境システムの構築と実装に関する研究(基盤A、2017-2020)		
社会貢献・産学官連携活動等	【社会的活動】 国土交通省中央建築審議会 委員/国土交通省社会資本整備審議会 委員/東京都都市計画審議会 委員/東京都子育て支援住宅認定制度等意見交換会 委員/豊島区住宅対策審議会 会長/豊島区都市計画審議会 委員/東京建築士会 理事(副会長)/建築センター 理事/マンション管理センター 理事/第一生命財団 理事/キッズデザイン賞審査委員/社会福祉法人 興望館 評議員/日本学術会議 連携会員/都市住宅学会 理事/日本建築学会建築計画委員会 委員/こども環境学会2022年度大会実行委員長 【産官学連携】 豊島区居住支援協議会、日本総合生活寄附授業、アキュラホーム共同研究、UR・JS委託研究		
受賞歴	子ども環境学会 論文・著作賞(『保育環境のデザイン』)(2015年) 都市住宅学会 論説賞 日本の少子社会における子ども・子育て世帯の現状—住居学の視点から(2019年)		

研究領域	建築計画学 住生活学・子ども環境学	
研究テーマ※	子どもの成育環境からみた住居・地域・施設計画に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】日本では、少子高齢化、人口減少の進行とともに、共働き世帯の一般化が保育施設の需要を高め、一方で子育ての困難を抱える状況にある。この課題解決には、様々な分野との連携が必要である。研究室では、2020、21年に、感染症パンデミックに対応すべく、保育施設の保育室の使い方、換気についての調査及び室内環境(二酸化炭素濃度、温湿度)の実測を行ない(図)、多様化する保育施設の物的な環境の質的な指標として示すことができた。また、既成市街地における、空き家・空き店舗、公共施設の老朽化・利用の不適合などについて実証的に調査している。これらは同時に地域の財産としての価値も内蔵しており、地域のコミュニティとの連携により、利活用につながる可能性を秘めている。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多様化する保育施設の質の向上のために、環境指標(面積、二酸化炭素濃度、温度・湿度など)水準及び子どもの生活・遊びに対応した空間計画を提示していく予定である。 ② 地域の空き家・空き室・未利用施設など地域財産を掘り起こし、ひとり親家庭など住宅確保要配慮者にマッチングしたり、地域の子どもの居場所(養護的な場、子ども食堂など)に転用・利用できるように、行政や地域で活動する団体とネットワークを形成しながら進められたらと考えている。 ③ コロナ禍におけるステイホームで新たな生活様式を実感した学生たち(Z世代)の住まい方分析に基づくライフスタイル、住空間の提案をおこなってきたい。 <p>【研究方法の特色】フィールドワーク、参与型調査、実測調査(二酸化炭素濃度、温湿度、塵埃、音環境など)、空き家など地域調査結果とGISデータのドッキング</p>	
本研究関連特許・論文等	<p>・ひとり親世帯の今後の居住支援展開における課題について一金指由里佳、定行まり子『日本建築学会技術報告集59号』、p.445-449、2019年</p> <p>・保育所における1歳児の生活行為からみた空間・環境に関する研究-関東圏内の2園における温熱空気環境に着目して-藤井里咲、定行まり子、日本建築学会計画系論文集 81(729) 2383-2391 2016</p>	
共同研究・外部機関との連携への期待	<p>・JSの委託研究 ・アキュラホームとの共同研究</p> <p>・豊島区居住支援協議会</p>	

